

No.	テーマ	概要	件数
1	京都に残る王朝の記憶	京都は、平安時代の宮廷文化を大切に守り伝えており、御所をはじめとする建造物、行事や祭事、美術工芸品などが受け継がれている。	3
2	秦氏と渡来文化	新羅から渡来したと伝わる秦一族。同族の渡来と共に伝わった大陸の土木建築、製鉄、機織などの先端技術や文化は、京都のみならず日本の文化の起源にもなっている。	2
3	平安京	平安宮跡、大極殿跡・小安殿跡・昭慶門跡など	2
4	豊臣秀吉の京都改造	天下の実権を握った豊臣秀吉は、大規模な都市改造を行い、現在につながる京都景観の基礎を形作った。	2
5	愛宕山	愛宕山は、古くから修験道の道場となり、中世後期以降、火伏せの神として広く信仰された。	3
6	京ことば	京都で古くから様々な文化を吸収しながらその特性を育ててきた京ことばには、他の地域の方言とも違った魅力にあふれている。	2
7	京の伝統産業	京都では、様々な時代に様々な分野で発展した伝統産業が現代に至るまで受け継がれている。	2
8	空海（弘法大師）	平安初期から続く空海の影響	2
9	禅と茶懐石	鎌倉時代、禅とともに茶と精進料理は伝えられた。禅宗の茶礼である四頭茶礼は茶道の原型となり、精進料理は懐石に影響を与え、京料理に融合した。	2
10	「応仁の乱—東陣と西陣—」歴史遺産	西陣は山名宗全邸跡の石碑、西陣織等で知られているが、「東陣」についての認識が薄い。「東陣」の歴史、地域を学ぶことで、「応仁の乱」後の京都の都市形成、意識形成を正しく認識することが出来る。	1
11	京都の路地（ろーじ）	京都の路地は都心部を中心に歴史的に形成されてきたものが多く、京町家が軒を連ねて立ち並ぶなど、古くからの町並みを残している場所も数多くあります。昔から、「路地（ろじ・ろおじ）」と呼ばれ、豊かで安心な暮らしを支える場として機能してきました。	2
12	過去から現在、さらには未来へと、人権文化の伝統が歴史の中に脈々と受け継がれていくまち	京都は、外部から人や文化を受け入れながら、文化の創造と経済の発展に寄与した足跡が残る、人権を考え・守る文化の伝統が歴史の中に息づくまちである。崇仁地区には、人権文化の歴史を物語る数多くの資料や建造物等が、地元の歴史保存運動により、現在に至るまで受け継がれている。	1

No.	テーマ	概要	件数
13	京都ならではの風習	「おため」, 「逆さほうき」, 「水無月」など	1
14	葵祭	斎王代が仕える上賀茂神社, 下鴨神社の祭礼	1
15	映画の発祥の地京都	京都は, 日本初の時代劇映画が製作されて以来, 多くの撮影所が置かれ, 日本の映画文化を支えてきた。	1
16	角倉了以	高瀬川を開墾した水運の父	2
17	祇園祭	祇園祭を支える山鉾町も文化遺産ではないだろうか。	1
18	京のまつり	京都には三大祭のほかにも節分会, ひな祭り, 七夕といった四季を彩る祭礼から, 「天神さん」や地蔵盆をいった, もとは宗教的な色彩が強かったが, 現在は住民にとって祭礼的な意味合いのみで捉えられるものまで, 1年を通して多くのまつりが存在している。	1
19	京の井戸	京都の地下水は, 1年を通して水温が18℃前後と変化が少なく, 水質も良いことで, 京料理, 湯葉・豆腐, 京菓子, 友禅染, 酒造り, 茶の湯など京のあらゆる文化を支えてきた。また, 信仰の対象にもなっており, 様々な風習, 伝説が残っている。	1
20	京の鴨川物語	京都市内の南北を流れる約33kmの河川である鴨川は, 悠久の歴史の中で千年の都と京文化を育んできた川であり, 多くの人に親しまれている。	1
21	京の車石	江戸時代の京都周辺の街道に整備されていたもので, 米などを運ぶ牛車が通りやすいように道に敷いた石とのことである。	1
22	京の酒文化	各酒蔵(建物), 酒づくりの道具と技, 地域の名産水など	1
23	京の織文化	高機を用いた織物生産は, 平安京の官営工房(織部司)や寺院, 貴族の家内機構によって行われ, 工人達が織物業を営むようになり, 西陣織としては大きく発展した。	1
24	京の生活文化	京都に永く受け継がれている京ことばや門はきなど日常生活におけるものにスポットを当てる。	1
25	京の庭園文化	京都では, 平安建都から現代まで庭園が作られ続けており, 様々な時代の庭園が今に継承されている。	1
26	京の民俗文化	京都人がもつ世代を越えて暮らしに生き続ける文化	1

No.	テーマ	概要	件数
27	京都のいしぶみ	京都市歴史資料館には、「いしぶみデータベース」があり、市内の石標等の周知を図っている。しかし、現在それらの保護がなされていないため、工事などによって撤去される場合があるので、その継承を図る。	1
28	京都の学生文化	学生の様々な活動を文化とみなして、社会に情報発信し、さらなる活動の発展につなげる。	1
29	京都の空襲	遺産として残っているものは少ないが、爆弾の破片が残っていたり、空襲の事実を後世に伝えるために建てた記念碑などがある。それらのものを保護、たくさんの人に伝えていくことが大きな役割を果たすのではないだろうか。	1
30	京都の寺社と名物	京都の寺社とその近辺の名産品や土産、名物を関連させて紹介する。寺社の歴史や魅力を紹介するのはもちろんのこと、その歴史とは別に名産品の歴史があり、名産品を作る無形の技術も併せて紹介する。	1
31	京都の銭湯文化	京都の銭湯文化は、京都に古くから根付き、今もなお、市民の生活や観光を影で支える存在です。	1
32	京都の町家建築	民衆の生活があったことを示す景観を残すことも大事なのではないだろうか。京町家の景観は京都独自のものである。	2
33	京都の比丘尼御所	皇族・公家など高貴な女性の入寺によって営まれてきた独特な品格を持つ寺院。修行や仏教儀式を勤めるだけでなく、文学や芸術の庇護および制作に自ら携わる場でもあり、皇室とのゆかりによる御所文化が生まれ、独特な宗教儀礼や信仰生活が形成された。	1
34	京都の名画	有名な絵画を所持する寺社は京都では数えきれないほど多い。これらの絵画の由来を紹介し、それと関連させて、寺社の歴史を紹介する。作者ごと所属する派閥ごとに、所蔵場所をまとめた案内図を作るのも効果的。	1
35	京都の木・北山杉が使われている建築物	北山杉は室町時代以降に用いられるようになった建築用材で茶室や数寄屋に使われた。職人の技術で手入れされ、まっすぐに伸びる北山杉の林と丸太小屋の立ち並ぶ山村は独特の景観を作り出している。	1
36	京都の門跡寺院	都であった京都には多くの門跡寺院がある。そこには皇室由来の様々なものが今に伝えられている。	1
37	京都御所	京都御所は、その古来の内裏の形態を今日に保存している由緒あるもので、平安時代以降の建築様式の移り変わりを見る事ができる。「京都御所」は帝が居たためにあるものであり、全国各地どこを探しても同じようなものはないであろう。	1

No.	テーマ	概要	件数
38	京都市電	京都市電は1895年に開業された日本初の一般向け路面電車である。日本の近代化の象徴であり、水力発電を取り入れた京都の技術力の象徴であり、京都の「先進性の歴史」の象徴である。	1
39	近代岡崎の庭園文化	琵琶湖疏水を利用した近代岡崎・南禅寺界隈の別荘・庭園群	1
40	竹に育まれ、受け継がれてきた和の文化・京都の産業	竹は古来、成長の速さと内部に空間ができる特異性から、最古の物語とされる竹取物語に見られるように神聖視されてきただけでなく、加工しやすさと耐久性から儀式や日常生活の道具の材料として活用されてきました。 現在も、竹製の工芸品や土産物は国際観光都市・京都の産業の一角を占め、素材としての生産地のこだわり、新たな用途の開発が見られ、更には、茶道・華道の道具類、日本庭園における鹿おどしや竹垣など、芸術・文化の分野においても活用され、試行錯誤と発展が続いています。	3
41	町家建築と暮らし	町衆の暮らしの中で形作られてきた町家とそこに残るしきたりや行事は京都の財産である。	1
42	哲学の道	哲学の道の周囲には様々な格式の高い遺産があり、日本の道100選にも選ばれている散歩道である。	1
43	年中行事	京都に生きる人々の知恵や暮らしに生きづき、継承されており、後世にもつないでいきたい。	1
44	八瀬童子が紡ぐ地域の宝	八瀬かまぶろ、赦免地踊、比叡山延暦寺、八瀬天満宮、八瀬童子宝物庫など	2
45	伏見の酒造りと蔵元	伏見には、23の蔵元があり、京都の近代産業の一翼を担ってきた。原材料や製品の運搬には、伏見城築城に際して整備された宇治川派流水路や壕川・高瀬川を利用し、近代にはさらに、琵琶湖疏水を利用し、水路と酒蔵のある独特の景観を今に残している。	1
46	保津川物語	亀岡から京都嵐山まで約12キロ、狭隘な山間部を蛇行して流れているこの川は、丹波と京を結ぶ動脈として、また、景勝地として人々に親しまれている。	1
47	本山文化	京都の宗教都市としての側面を評価していく。	1
48	幕末、明治維新の舞台	壬生、蛤御門、鳥羽など	1
49	冥官 小野篁	警察・検察・司法において優れた実績を持つ官僚であった小野篁。数々の難事件を常識はずれのやり方で解決する。行政官として葬場整備に関わるうちに、彼のその異能と奇行は、冥官伝説を生んだ。	1

No.	テーマ	概要	件数
50	名水の都	水は京都の歴史や文化の形成・発展を語るには欠かせないのである。京都という歴史的都市の核をなしてきた水を語ることは、自ら京都の歴史・文化を語ることへと繋がってくる。	2
51	一乗寺のラーメン文化	アメリカの俳優が来店するなどラーメン文化も世界に誇る京都の大事な文化である。	1
52	お茶	お茶は中国から日本に伝来した。それ以降、京都では、お茶を生産する技術が高められ、抹茶・煎茶・玉露を生んだ。800年という長い期間にわたって多種多様なお茶を作り続け、喫茶文化の形成に大きく寄与しており、製茶面からリードし、発展をしてきた歴史があり、その発展段階ごとの景観を残しつつ、現在に伝える独特で美しい茶畑、茶問屋、茶まつりなどが優良な状態でそろって残っている唯一の場所である	1
53	宇治上神社	応神天皇、仁徳天皇、菟道稚郎子が祀られており、日本書記にも出てきて日本古代の神代の象徴である。まわりには、山や宇治川、平等院、源氏物語ミュージアムなど文化遺産や歴史的な建物が数多くあり、その他の歴史的な建物と一緒に歴史的都市として保存できればいいのではないかと思う。	1
54	京都・宇治の世界遺産の保護・継承	コアゾーン、バッファゾーン、背景等々の世界遺産の価値を落とすような建築等にはキッチリとした規制をかける重要性	1
55	京の街並み		1
56	京都の古典文学		1
57	京料理		1
58	暮らしに学び、暮らしに憩う		1
59	源氏物語		1
60	五山の送り火		1
61	禅寺の雲竜図		1

No.	テーマ	概要	件数
62	都の歴史を感じる		1
63	京都の環境保全地区	その土地の雰囲気をつくりだしている景観や文化を 一対としてみる。	1
64	生態系の残る森	清水寺，北野天満宮はかつて枯れ枝すら伐採できな かった。それによって残る生態系がある。	1
65	木材生産地，標高300mの 山里（場所：京北町～黒 田，廣畑，比賀江）		1
66	五条坂界限における焼き 物と登り窯について	五条坂近辺では江戸時代から登り窯が築窯され，多 くが共同窯として陶芸家が切磋琢磨する場として発 展し焼き物文化を形成してきた。現在は登り窯の火 入れができなくなったが数基の登り窯や窯跡が残っ ている。	2
67	若狭街道		1
68	上賀茂社家群，酸茎菜の 生産地		1
69	三川合流域		1
70	古代から続く人の営みの 証・古墳群	平安京よりも遙か昔，縄文期から既に人が住み，大 陸から渡来した人と文化が融合して築かれた古墳 群。秦河勝ら秦一族が桂川流域を，賀茂一族が賀茂 川流域をその治水技術で開墾するまで，京都盆地で 最も多く人が居住していた古名・西ノ岡の地域に は，京都市内で最も古い古墳群が遺されています。	2
71	1200年の秘密 風水都市・京都	古来，易経をはじめ風水の考え方では，王城の都邑 は，北に高い山，東に大きな川，南に大きな湖沼， 西に大きな道が開けている場所がよいとされてきま した。このすべての要素を満たしていたがゆえに， 京都は1200年以上も都市であり続けているといわれ ています。	1
72	伊勢物語，大枝山の鬼， 福西の古墳群		1

No.	テーマ	概要	件数
73	老の坂	本能寺の変の折、明智光秀がこの沓掛峠から洛中へ進入した。当時、この道は中国地方と洛中への分岐点となっており、光秀の入洛への最後のポイントであった。この峠で考えが変わっていれば、本能寺の変はなかったかもしれない。	1
74	仁丹町名表示板	京都独特の住所表示を正確に表し、京都の近代史や昭和初期のまちの形を教えてください。さらに住民に大切にされている様子からは郷土愛すら見えてきます。このような看板は他都市にはなく、今や京都の立派な文化財と言えます。	2
75	「山の京都遺産」 平安京の神山信仰と観音信仰	京都の文化遺産をより深く伝えつつ、観光対象拡大を目指す。京都市中を取り巻く山岳には、平安時代以降、京都文化の基層となる「古代からの神山信仰」があり、そして「奈良時代の観音信仰」がある。今、まさに伝え守るべき「京都遺産」である。	1
76	「煎茶」、 「喫茶」	江戸期の残る京都の建物と庭で満喫できる「喫茶」のおもかげ、「抹茶」、「煎茶」、「玉露」の磨き抜かれた背景。 京都における文明開化の影響の中生まれた気軽な「喫茶」、江戸後期の宇治あたりで進化した「煎茶製法」にポイントを置く。 明治維新を引き起こしていく流れの中心にいた京都の学者・公家によって、「煎茶道」が起こされていくが、同時に宇治田原で蒸し製法の「煎茶」、明治になって京都小倉で「玉露」が開発される。 総合的に、道具、茶葉、着物との関連も絡み、生きた遺産として意味を持つ。	1
77	北野/西陣の暮らしと信仰	西陣は平安時代より織物生産が行われており、近世には西陣織と言われる絹織物の生産地として繁栄し、織物は分業制の下で生産されたため、それに伴う建物建築や地域の結びつき等で独自の文化が生まれた。 また、菅原道真を祀る北野天満宮は広く西陣をはじめとする人々の信仰を集め、上七軒は織物生産を主とした産業に加え、花街文化などの京都の伝統芸能を支えてきた。	1
78	後白河と清盛・義経（平家物語）	武士が台頭してきた世にそれを操り王朝権力を保とうとした後白河法皇は文化プロデューサーでもあった。清盛、義仲、義経にかかわる物語。	1
79	明治の京都策	第1期西洋技術の導入を軸とした産業復興、第2期琵琶湖疏水、第3期上下水道敷設・道路拡築と電気鉄道敷設等のインフラ整備。	1
80	花街	京都の伝統文化の魅力が凝縮した花街の文化、伎芸を中心に町全体でおもてなしの文化を継承している。	1

No.	テーマ	概要	件数
81	声明の里・大原	最澄が天台の教えとともに持ち帰った仏教音楽「声明」を伝えるため、良忍が大原魚山に道場を開き、宗派を超えた僧侶が集い学んだ。日本仏教音楽のふるさと。	1
82	信仰を支えるまち（寺内町）	京都には寺院を核として宗教的連帯感と、関連する生業で独特の地域が形成されていた。いまでもその名残をとどめている。	1
83	祇園	西の北野，東の祇園は民衆が参詣する2大スポットであった。	1
84	京友禅	元禄年間に扇絵師宮崎友禅齋が創案した，布にあらゆる模様を華麗に染める高度な技術。明治に広瀬治助が科学染料を用いる型友禅の技術革新を行い量産化に成功した。	1
85	金属工芸の技	仏教用具，祭事用具，茶道具，文化財修復などで保存されてきた精密で美的な金属加工技術の継承は，全国的にも重要な課題である。	1
86	法然ゆかりのスポット	浄土宗を開いた法然は，中世における宗教改革の先駆者であった。そのゆかりのスポットが京都に沢山のこされている。	1
87	最澄のゆかりのスポット	比叡山延暦寺を開いた伝教大師最澄ゆかりの地を結び付け集合体として維持，継承する。	1
88	洛北の盆踊り	全国の盆踊りの祖型といわれる念仏踊りや題目踊り，近世に流行した鉄扇（鉄仙踊）や紅葉音頭，そして明治以降の江州音頭が重層的に見られ，祖霊信仰から庶民の娯楽への広がりが残る。	1
89	剣鉾のまつり	京都の古くからの祭礼には，棹の先に光輝く菱形の剣を前後に揺らしながらその下に吊られた鈴（りん）を打ち当てて巡行する「剣鉾差し」が数多く見られる。その祭具が神社ではなく，氏子有志の所有・護持にあることも特徴的である。	1
90	念仏狂言	念仏の教えをひろめるべく行われた念仏狂言は，芸能としても発展を遂げ，庶民の楽しみとなっていった。	1
91	戦後京都の都市経営（国際文化観光都市）	高山義三市長が，国際文化観光都市宣言を発し今後の方向性を提示	1
	合計		112